

2020年 10月 4日 主日礼拝

司式：岩井明彦長老

奏楽：須田ゆかり

*以下、太文字の言葉はみんなで声を合わせます。

《神のみ前に近づく》

前奏 主イエス・キリストよ、私はあなたに呼びかけます
J.S. バッハ

序詞 (ヴォータム)

わたしたちの助けは、天と地を造られた神からきます。
アーメン。

あいさつ

主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりが、あなたがたとともにありますように。

そして、また、あなたとともにありますように。
アーメン。

讃美歌 202-1節のみ(よろこびとさかえに満つ)

罪の告白 (声を張り上げないで共に祈ります)

父なる神さま、新しい10月の歩みが与えられたことを深く感謝します。過ぎた月に私たちが犯した罪を赦し、聖霊とみ言葉によって洗い清めてください。新しい思いと新しい力を与え、進むべき道を示してください。この良き季節の中であなたを心から讃美して生きる者となりますように。

主よ、ウィルスとの戦いを、揺らぐことなく、怠(おこた)ることなく続けていけますように。癒しと介護を必要としておられる方々、その介護と看病に当たっておられる方々、この社会や制度を維持し守るために働いておられる方々を支えてください。どうか、この世界と日本に、あなたのみことの癒しの道を示してくださいますように。

「主の律法は完全で、魂を生き返らせ

主の定めは真実で、無知な人に知恵を与える。

主の命令はまっすぐで、心に喜びを与え

主の戒めは清らかで、目に光を与える。」

(詩編 19:8~9)

*しばらく黙禱の時をもちます

主よ、私たちの心と体をとらえ、生き返らせ、喜びで満たしてください。魂をあなたの希望の光で包んでください。御名によって祈ります。アーメン。

讃美歌 32 (キリエ) = 座ったままで

赦しの確認と保証 (司式者のみ)

主の赦しと慰めの言葉をお聞きください。

*司式者がローマ書5章6~9節を朗読します。

アーメン。

《神のみ言葉の宣教》

聖書

ヨエル書 2章：1~10節 (旧p1422~1423)

これは神の言葉です。

神に感謝します。

ヨハネの黙示録 8章：13~9：11節
(新p462)

これはキリストの福音です

主なるキリストを賛美します。

み言葉を求める祈り (司式者)

讃美歌 157-1, 2節 (いざ語れ、主の民よ)

説教

『黙示録③④ — 底なしの淵から』
祝福の祈り 武田真治 牧師

《神への応答》

讃美歌 436-1, 2節 (十字架の血に)

献金

奉仕者：阿部孝司 阿部千尋

とりなしの祈り (司式者)

主の祈り 93-5 (ともに祈りましょう)

報告

讃美歌 83-1節のみ (聖なるかな)

祝禱

後奏

報告と退場 あなたのうちに喜びがあるように J.S. バッハ

受付：松田頼子 森本博子 礼拝：齋藤みちゑ長老

お茶の会 当分の間休会です。

〈先週の説教から〉

『詩編⑩ — 主よ、なぜ遠く離れて』

詩編 10：1~18 マルコ福音書 15：33~39

この詩編10編は、表題に(アルファベットによる詩)とありますように、ひとつ跳びに節の最初の文字がヘブライ語の22文字で順番に始まっている言葉が配置されます。しかも、この形は前の9編から繋がっており、9編は前半11文字を、そして10編は後半11文字を担当しています。それ故、1節が12番目の文字(ラメット)から始まる「ラマー(=なぜ)」であり、最後の17節が22番目の文字(タウ)から始まる「ターアウアーハ(=願ひ)」から始まっているのです。

以上のように9編とは2つで一つのような詩編ですが、内容はかなり違っていています。9編は勝利の讃歌ですが、10編は神様への叫びです。

最初から「主よ、なぜ遠く離れて立ち、苦難の時に隠れておられるのか」と問いかけます。それは、この祈り人を圧迫する者がいるからです。しかもその相手は「自分の欲望を誇り」かつ「主をたたえながら、侮っている」人でした。表向きは神様を信じているように振る舞いながら、内心では神なんてとばかにしているのです。故に「何事も神を無視してたくらむ」と。まさに神様を畏れぬ生き方をしており、逆にまじめに神様を畏れ、神様を求めて生きる者たちをあざ笑ひ、陰で迫害するのです。いつの時代にもこのような人たちは存在しますね。それこそ神様が裁かれるのでは？

神様が遠いと感じることがあります、私のことなど見ておられないのではと感じることが。そこに私たちの信仰の戦いがあると思います。

本日の集会 礼拝前：・求道者会；礼拝後：・長老会

・会堂管理委員会 ・聖歌隊練習